

<中学1年生>

## make と「メイク」の違いについて

～日英発音比較シリーズ② 二重母音の音「エイ」の習得～

### 「エー、ビー、シー」は知ってても

最近では巷(ちまた)にもアルファベットがあふれているせいか、中学1年の入学時にはアルファベットの文字も読み方もわかるのが普通だが、ほとんどは日本語式発音である。つまり、「エー、ビー、シー、…」という具合である。F や V の発音が特別なのは仕方がないし、L や R といったきわめて日本人が不得意な発音も難しいと感じるに違いないことは当然であるから、それらの習得には時間がかかるのは言うまでもない。しかし、それらと同様に A, H, J, K の発音は日本語から脱却するのが難しい。いずれも「エー、エッチ、ジェー、ケー」と日本語で発音しているため、「エイ・エイチ・ジェイ・ケイ」とイを入れて発音するのが難しいのである。

### 日本語では「エイ」と表記しても「エー」と発音する

丁寧(テイネイ)という語を発音するとき、私たち日本人は間違いなく「テーネー」と長母音で発音している。そのまま、/teinei/と発音すると、かえって違和感があるに違いない。衛生は「エーサー」と言うし、形成「ケーサー」、平定「ヘーテー」など、枚挙に暇(いとま)がない。日本語では「エイ」と表記しても/ei/と発音することはなく、長母音で発音するのが普通であり、それが自然な日本語の発音だからである。

ところが、これが英語の発音になると/ei/ときちんと発音しなければならないので、なかなか慣れるまでには時間がかかる。ace, make, take, cake, lace, date など日本語になっているものだけでも、日本語にひきずられて「エース」「メイク」「テーク」「ケーク」「レース」「デート」と発音してしまうからである。

### 日本人の音のとらえ方と表記のしかた

二重母音の/ei/という音がとれないので、a を「ア」ととらえる傾向にある日本人は、初めのうち cake を ceke とつづったり、make を meik とつづったりすることが多い。これは、長母音のまま「エ」⇒e と理解したり「エイ」とわかっているものの「エイ⇒ei」と勘違いしたりすることがあるからだと思う。すなわち、日本人の音のとらえ方では cake の場合[ケー][ク]の2つから成っていると考えているからである。そこで、[ケー]を表す ce と[ク]を表す k(e)を表記するのであろうと推察される。日本語のかな文字は表音文字であり、一文字につき音もひとつだと思われるが、実はそうではない。たしかに母音を表すアイウエオについて音はひとつであるがそれ以外の文字は2音、あるいは3音からなっている。ローマ字で表記すれば一目瞭然(いちもくりょうぜん)である。たとえば先の「ケーク」はローマ字では“keku”と書くので、「ケ」も「ク」も子音のkと母音のeやuを組み合わせた2音で構成されている。(試しに50音をローマ字で表記するとそれがよくわかると思うのだが。)私たち日本人は意識していないが、「ケ」も「ク」も音素としては2音である。

### 発音からつづりへ

英語の発音を日本語式から英語式に改めることにより、まず「エイ」という音の表記の文字を a だと意識することがその第一歩となろう。さらに「ケーク」や「メイク」ではなく/keik/, /meik/ という

音のとらえ方をすることにより take や lake, bake, sake, wake, fake といったつづり字がすべて /eik/ という音を構成していることに気がつくであろう。そう意識することで、英語も発音とつづり字が関連していることに気がつき、つづり字を覚えることは発音を知る手がかりになることにも気がつくはずである。以前、make のつづりを覚えるのにローマ字読みをして「まけ」と覚える生徒がいたが、それだといつまでたっても英語には「負け」てしまう。「まけ」と覚えなくて、ぜひ/meik/と発音してつづりを覚えて欲しいものである。

《おまけ》 /ei/ の音のつづりは wait のように語の途中にある ai, これが語尾にくと play のように ay のつづりになるものもあります。いずれも基本は a の文字です。

注) cake や make などのように終わりにある e は発音こそありませんが実は「前の母音をきちんとアルファベットの音として読む」という大切なマーカー(標識)です。“音はなくても役目がある”という大事な文字です。これらも見逃してはいけないですよ！